

教育長会見質疑応答要旨

令和8年7月22日（水） 於）教育委員会室

教育長発表

◎入試制度の変更点について

教育長：本日は、令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における主な変更点についてお知らせいたします。制度変更の内容については、これまで県教育委員会として公表・説明をしてきたところですが、学校が夏休みを迎えるに当たり、受検生の皆さんに安心して準備を進めてもらえるよう、本日あらためて御説明いたします。

主な変更点は大きく3点です。1点目は、調査書の様式変更と自己評価資料の提出です。2点目は、面接を全ての受検生に実施することです。3点目は、学力検査問題におけるマークシート方式の導入です。

入試は、単に知識や結果だけを見るものではなく、受検生一人一人がこれまでの学びを振り返り、自分の言葉で将来への思いを表現し、自らの可能性に向き合う機会でもあるべきだと考えています。今回の変更は、そのような受検生が主役となる入試を実現するためのものです。受検生にお伝えしたいことは、制度は変わりますが、皆さんがこれまで積み重ねてきた努力の価値は変わらないということです。どうか不安を感じることなく、目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。

まず、調査書の様式変更と自己評価資料の提出についてです。これまでの調査書には、学習の記録の他、特別活動や学校外での活動など様々な記載項目がありました。令和9年度入試からは、調査書の記載事項を見直し、「各教科の学習の記録」と「総合的な学習の時間の記録」を基本とすることとしました。これまでの出欠の記録や特別活動等の記録などはなくなっております。

一方で、中学生の皆さんの活動や経験が大切でなくなるわけではありません。むしろ、学校内外でどのようなことに取り組み、何を感じ、何を学んだのかを自らの言葉で表現していただくことを重視するため、自己評価資料を作成してもらうこととしています。どのように中学校時代を過ごし、どのように成長してきたかを大切にしたいと考えています。

次に、自己評価資料についてです。自己評価資料は、面接を行う際の補助的な資料であり、これ自体が得点化されるものではありません。この資料は受検生が自ら作成するものです。これまでの体験を振り返り、力を注

いだこと、努力したこと、高等学校入学後や将来取り組んでみたいこと、自己PRなどについて自分の考えを書いてもらいます。大切なのは、その活動に、なぜ取り組んだのか、そこから何を学んだのか、どのような成長につながったのかなど、自分自身の歩みを見つめ直すことに、この資料は大きな意味があります。そうした過程や学びを含めて、面接では多面的・多角的に評価していきます。

次に、面接を全ての受検生に実施することについてです。面接の時間は、概ね5分から8分程度で、個人面接か集団面接かは各学校によって異なります。面接で最も大切にしたいことは、自分自身を見つめ、自分の言葉で話すことです。そのため、面接の冒頭には、受検生から話す時間「My Voice（マイ ボイス）」という時間を設けます。受検生の皆さんには、これまでの経験を振り返り、力を注いできたこと、努力したこと、将来取り組みたいこと、自己PRなどについて、自らの言葉で話していただきます。

面接は、話し方や受け答えの仕方を競う場ではありません。特別な成功体験がなければならないというものでもありません。大切なのは、自分自身と向き合い、考えたことを自分らしく、自分の言葉で表現することです。面接は、受検生が自分自身を見つめ直し、自らの可能性を考える機会としていただきたいと考えています。

次に、学力検査ではマークシート方式を導入します。各教科での出題形式の割合ですが、得点換算でマークシート方式が9割程度、記述式が1割程度となります。出題の基本方針は変更ありません。マークシート方式に変わりますが、受検生に求められる力が変わるわけではありません。また、国語の作文は実施いたしません。授業等で学んだことを理解し、考え、表現する力が大切であることに変わりはありません。不安を感じることなく、日々の学習にしっかりと取り組んでほしいと思います。

ここまで、令和9年度入学者選抜の主な変更点についてお話ししてきました。受検に向けては、制度をよく理解して準備を進めてもらいたいと思っています。そして、受検においては、自分に合った高校を見つけることも大切ですので、ここからは高校選びにつながるお話をさせていただきます。

埼玉県には、多彩な特色と魅力をもつ県立高校がたくさんあります。各高校では、この夏休み中も学校説明会等が行われており、そこで得られる情報は進路を決める際の大きな手がかりとなります。

埼玉県立総合教育センターのホームページ内には多くの学校説明会の情報が掲載されていますので、ぜひご覧ください。また、多くの学校では、学校説明会に加え、個別相談、体験入学や模擬実習等も実施しています。ぜひ実際に学校を訪れ、その学校の雰囲気に触れ、先生方や先輩方の話を

直接聞いてみてほしいと思います。受検生の皆さんには「ここで3年間学びたい」「ここで成長したい」と思える学校を見つけてほしいと思います。

令和9年度入試日程については資料のとおりです。最後に、改めて受検生の皆さんにお伝えします。中学校生活の中で学んできたこと、友人や先生との関わりの中で得た経験、部活動や学校行事、地域での活動など、皆さんが積み重ねてきた全てが、これからの皆さんの力になります。暑い夏を元気に乗り越え、目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。受検生一人一人の挑戦を心から応援しています。

テレビ埼玉：面接が全ての学校に導入されますが、例えば筆記試験の点数があまりよくなくても、面接によって点数が加算されて合格することや、またその逆といったことはあるのでしょうか。

教育長：学校によって細かい取扱いは異なりますが、面接は得点化されます。

高校教育指導課：My Voice（マイボイス）を含む面接自体は得点の対象となり、5教科の学力検査に加えて面接点がつきます。

テレビ埼玉：面接点の配点は5教科と同じくらいになるのでしょうか。

高校教育指導課：5教科は1教科100点×5教科で500点満点が基本で、これに加えて面接点があります。面接の配点は、基本は30点で、学校の判断により60点とする場合もあります。30点の内訳は、各項目について、面接の中で受検生が表現した内容を基に、面接官が3・4・5点の三段階の中から点数を付け、合計して30点満点とするものです。

テレビ埼玉：調査書の様式が変わり、出欠の記録や特別活動等の記録がなくなり、代わりに自己評価資料が提出されることになったと思いますが、こちらはなぜ変更されたのでしょうか。

教育長：全体の変更についてお話します。今回の入試制度の変更には何点か視点があります。まず、学習指導要領で育成が求められている資質・能力である思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等を適切に評価する必要があるという視点、生徒の意欲や多様な活動等を多面的・多角的に評価する視点、そして、部活動の地域移行も始まっており、生徒の学校内外での活動が今後ますます多様化することが見込まれるといった視点。こうした視点から、入学者選抜の改善が必要と考え、変更を行うものです。マークシートの導入については、既に近県や県内私学で導入している学校も多く、

導入に向けて調査研究をしてきました。マークシート形式でも、思考力・判断力・表現力等をきちんと評価することが可能であることが分かってきたこと、また導入により採点が一層公平公正になる観点から導入します。

朝日新聞：自己評価資料は点数化されないということでしたが、学校独自項目というのがあると思います。学校によってテーマを設定して記述を求めている部分も、点数化はされないということでしょうか。

高校教育指導課：おっしゃるとおり、自己評価資料に書かれた内容そのものは点数化されません。自己評価資料を参考に面接が行われ、その面接を通じて点数化することになります。なお、選抜では学力検査と面接の得点のほか、調査書から得られる得点、一部の高校では実技などの特色検査の得点も合わせて総合的に点数化し選抜します。

朝日新聞：学校独自項目を設定している学校数は把握されていますか。

高校教育指導課：学校独自項目を設定している高校数は市立高校を含め 55 校です。県立高校のみでは 53 校です。

朝日新聞：My Voice（マイボイス）ですが、面接全体が 5 分から 8 分程度ということでしたが、そのうちの何分ぐらいなのでしょう。また集団面接においても、My Voice（マイボイス）の時間はあるのでしょうか。

教育長：1 人当たり 1 分半から 2 分程度です。集団面接でも実施します。

時事通信：高校入試で、全ての受検生に面接を導入している他県事例はありますでしょうか。また、これは一般的なものののでしょうか。

高校教育指導課：他県で全ての受検生に面接を実施している事例はあります。ただし、全国的に多くの都道府県が実施しているという認識ではなく、一部の自治体で実施している状況です。

時事通信：マークシートを導入することで、公平公正になるという点があると思いますが、採点が早くなるなどの利点もあると考えてよろしいでしょうか。

教育長：おっしゃるとおりで、教員の負担軽減にもつながると考えています。

時事通信：マークシートに関連して、国語の作文は実施しないということでしたが、実施しない理由を教えてくださいませんか。

教育長：マークシートにすると作文の採点は難しい面がありますが、中学校学習指導要領では、思考力・表現力等に関する指導として、実際に文章を書く活動を重視することが示されています。入試で実施しないから中学校でやらなくてよいということではなく、文章を書く活動は引き続き必要であり、中学校の学習では作文指導は引続き行われると考えております。入試のためだけの学習活動にならないように、中学校等での様々な学習活動において積極的に取り組んでもらいたいと考えています。

時事通信：面接を導入することで入試の日程は変わるのでしょうか。また、マークシートや面接への対応について、受検生や中学校側で準備が必要になると思いますが、県教委としてフォローされる予定はありますか。

高校教育指導課：日程は資料の最後のシートのとおりで、マークシート導入により採点期間の短縮が見込まれることと、面接導入を合わせて一体的に導入することで、全体として大きな日程変更は生じないようにしています。

教育長：これまでも面接を実施している学校はありましたが、全校実施となることで心配する受検生もいると思います。これからの時代を生き抜くためには、自分の考えを相手に伝える力が必要です。体験や経験を通して身に付いた力、成長した点、高校で学びたいことなどを自分の言葉で話してもらえればよく、入試のために過度に面接練習を重ねるということではなく、日々の学校生活の中で表現する場面を増やしていただいて、自分の考えを相手に伝え行動するといったことを大切にしてほしいと思います。あまり負担に感じずに、日々の学校生活をしっかりと過ごしていただければと思います。

幹事社質問

テレビ埼玉：長期休業期間中等の学びや体験活動の充実について質問します。文科省が、学校の一部開放などを全国に要請したと思いますが、県内ではどの程度実施されるのでしょうか。

教育長：文科省通知は、これまでも学校施設や社会教育施設等を開放して学び

や体験活動の充実を図ってきた中で、子供の貧困対策や酷暑対策等も踏まえ、長期休業前に改めて地域の実情に応じた充実をお願いしたい趣旨と承知しています。具体的な数字は把握していませんが、本県でも、長期休業期間中に学校施設の開放を行っているところがあります。小学校の例として、地域住民が主体となって放課後子供教室事業として子供向けの体験活動・交流活動を実施している地域があり、新座市のある学校では、学校の教室を使ったプログラミング教室を行い、また八潮市の小学校では中庭等を使った水遊びの体験活動などを行っていると同っています。

テレビ埼玉：今年、何かの取組を増やすということはないでしょうか。

教育長：県として、これをやってくださいと指示しているものではありませんので、新たな取組があるかもしれませんが、現時点では把握していません。

その他質問

テレビ埼玉：全国で公立中学校の水泳の授業が取りやめ等になっていると思いますが、県内の中学校の状況を教えていただきたいと思います。

教育長：令和7年度の調査結果では、中学校353校中、水泳の実技を実施していない学校は64校で、実技の未実施率は18.1%です。理由は、施設の老朽化によるものが49校、残り15校はプールを設置していない学校です。なお、実技を実施していない学校でも、水泳の事故防止に関する心得等は座学で実施しています。

東京新聞：東京都が今月から公立学校の教員に公用スマホを配備する動きがあると思いますが、埼玉県では公用スマホ導入についてどのようにお考えでしょうか。

教育長：他の自治体のそのような取組は承知しております。生徒の写真撮影を公用端末で行うことや、特別支援学校等で緊急の情報共有・連絡等において活用ができると伺っています。本県では現時点で導入の検討はしていません。不祥事防止に向けては、個人の端末を使ったSNSの活用や写真撮影などは禁止しています。

テレビ埼玉：県内の看護専門学校で14校が閉校見込みとのことですが、こち

らについてお考えやコメントをいただけますでしょうか。

教育長：所管ではありませんが、私も学校現場にいた経験から、看護師を希望している生徒たちにとっては、進路先が狭まってしまうという心配もありますが、進学先とも連携しながら、進路指導を適切に行っていければと考えています。

産経新聞：体験活動の充実に関連して、保護者の経済状況によって子供たちの体験格差が広がっているという指摘もあると思いますが、体験格差についての所見と、県として体験格差を防止するための取組があれば教えていただけますでしょうか。

教育長：子供たちに多様な学びや体験活動の機会を提供することは重要であり、発達段階に応じた様々な体験をしてほしい一方で、格差が生まれてしまうことは心配しています。県としては、県の社会教育施設や図書館等で、夏休み期間を含め子供向けの取組を展開しています。例えば埼玉県立図書館では、子供向けのおはなし会のイベントを行っており、無料です。博物館等でも子供の受入れを積極的に行っています。また、県立げんきプラザでは、実費はかかりますが、キャンプ、ラフティング、生き物観察などの体験活動も行っていますので、ぜひご活用いただければと思います。